

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 文字列学的手法によるシーケンシャルデータ解析

2. 個人研究者名

稲永 俊介（九州大学大学院システム情報科学研究院 准教授）

3. 事後評価結果

文字列は各種データベースや通信において利用される基本的なデータ型である。本課題では文字列の持つ「反復性」と「規則性」という組合せ論的な数理構造を活用して多様な構造を持つ文字列データを高速に処理するアルゴリズムを開発することで、包括的な文字列データ解析基盤を確立するものである。動的に変化する文字列データの高速処理アルゴリズム、時系列・グラフ・二次元画像といった多様なデータを広義の文字列と見なして、その数理構造を解明することで木型文字列を高速処理するアルゴリズム、および時系列データの高速比較アルゴリズムなど、文字列処理分野における重要な成果を数多く得ている。また、さきがけ領域内連携に触発されてデータ編集に対する圧縮アルゴリズムの頑健性を定量評価する「圧縮感度」と呼ばれる新指標を提案することに成功し、それに基づいて圧縮アルゴリズムの性能を俯瞰的に再評価し、それを活かして高速パターン検索が可能な圧縮データ構造を見いだすなど、その活用でも成果を得ていることは本領域の目標に照らし合わせて特筆すべき成果である。本さきがけでの成果を活かして、今後も文字列処理分野を牽引する研究者として活躍することを期待している。